

経済学部中国語教育に関する一考察（五） —ピンイン習得ストラテジーを中心に—

竹 中 佐英子

1. テーマ選定理由

筆者は東洋大学経済学部国際経済学科（以下「国経」）において、1年生選択必修科目「中国語Ⅰ（文法）」（以下「中Ⅰ文」）、2年生選択必修科目「中国語Ⅱ（文法）」（以下「中Ⅱ文」）を担当している。国経の中国語教育が抱える最大の問題は、「ピンイン」の読み書き規則が完璧に身に付かない学生が、一定数存在することである。中国語を記録する記号は漢字（中国大陆ならその画数を減らした簡体字）である。漢字の多くは意味を表す「偏」と読み方を表す「旁」から構成される「形声文字」であるが、旁はローマ字のように見てすぐに読み方がわかるとは限らない。周有光1995. p1によれば、「現代中国語で常用されている漢字約7,000個のうち、旁が忠実に読み方を表す漢字は39%に留まる」という。そこで中国政府は1958年、中国語の漢字音を表すローマ字表記法を制定した、これが「ピンイン」である。例えば、中国語で「私」を意味する語は“我”であり、ピンインでは“wo”と表記、「ウォー」のように読む。ピンインは、その表記から連想される読み方が実際の発音とはかなりかけ離れているものも多く、例えば、“i a n”は「イアン」ではなく「イエン」、「z i”は「チー」ではなく「ツー」、「q u”は「クー」ではなく「チュー」のように読む。ピンインは書き方にも規則がある。例えば、三重母音“u e i”は単独で音節を構成する時は“w e i”、前に子音が付く時には間にある“e”を省いて子音+“u i”と書く。だから、子音“d”の後ろに三重母音“u e i”が続く時は“d u i”と書くので、「トゥイ」と読みたくなるが、正しくは「トゥエイ」のように読む。このように、ピンインはその読み書きに様々な規則があるのだが、それは体系的で例外が無く、一度覚えてしまえば未知の中国漢字音が一目でわかるようになる、非常に便利な学習ツールである。よって、初級の中国語教科書は冒頭数ページでピンインの読み書き規則を教え、「中Ⅰ文」では初回～数回目の授業でこれを集中的に学ぶのだが、この科目を履修した後に進む「中Ⅱ文」では毎年、“i a n”を「イアン」、「z i”を「チー」、「q u”を「クー」と読む学生が後を絶たない。

筆者が中国語教育においてピンインの読み書き規則の習得を重視し、これが身に付かないことをゆゆしき問題であると考えている理由は3つある。1つは、現在出版されている中国語の教科書や辞書が全て、中国語の漢字音をピンインで表記しており、これを習得しておかないと、教科書を音読することも、辞書を引くこともできず、中国語学習に大きな支障をきたすからである。2つ目の理由は、パソコンやスマートフォンで中国語を入力するには、簡体字のピンイン表記を知っておく必要があるからである。3つ目の理由は、筆者が履修者に中国語検定試験（以下「中検」）に合格して欲しいと考えており、ここには必ず一定量のピンインが出題されるからである。中検とは、1980年代～日本中国語検定協会が主催している、中国語の能力を測る試験である。最低レベルの準4級は大学の初習外国語第一年度半期終了、その1つ上のレベルの4級は第一年度全部終了、さらにその1つ上のレベルの3級は第二年度全部終了で対応することができる。幅広い教養を身に付けるべき大学教育において、特定の試験の合格を目指させる教育法には反対意見もあるが、国経の中国語履修者には学んだ中国語を使う場がほとんど無く、学習意欲を維持することが難しい。このような状況の下、中検に合格すれば、自身の中国語力が客観的にわかり、学習成果を実感することができる。中国へ進出している日本企業には、中検合格者を積極的に採用するところも少なくない。経済学部では数年前に初習外国語検定試験受験者に検定料を補助する制度ができてから、中検受験者は年々増え、中国語学習の態度も「単位さえ取ればよい」という消極的なものから、「中検に合格して就活を有利に進めたい」という、積極的で真剣なものへと変わり、良好な学習環境が形成されている。

さて、国経の中国語履修者が合格を目指すことのできるレベルの中検準4級、4級、3級には必ず毎回、ピンインに関する問題が出題され、配点の2割を占める。資料1は中検準4級リスニング問題の一例で、読み上げられた中国語の音声と一致するピンイン表記を4つの選択肢の中から選ぶ、という問題である。

【資料1】これから読む(1)～(5)の中国語と一致するものを、それぞれ①～④の中から1つ選び、その番号に○を付けなさい。(第85回準4級リスニング、1問2点×5問=10点)

(1) ①bāo ②báo ③bào ④bào

(2) ①zhā ②shā ③xiā ④chā

(3) ①hè ②kè ③tè ④gè

(4) ①xí ②jì ③qí ④chí

- (5) ①kān ②gān ③kāng ④gāng

読解や日文中訳で満点を取るのは困難だが、ピンインの読み方は覚えておきさえすれば誰でも満点が取れる。準4級合格最低点は満点の60%だから、資料1のようなピンインの読み方を問う問題で得点を確保しておけば、合格可能性は格段に高まる。

国経の中国語教育が成果を上げ、また中検に合格するためには、「中I文」の授業を通じて、履修者全員がピンインの読み書き規則を完璧に身に付けることが重要である。では何故、一部の履修者はそれを身に付けるのが困難なのだろうか？本稿は、国経中国語履修者がピンインの読み書き規則を習得する上で困難に感じている点を探求し、その原因を分析した上で、中国語教育に対して提言を行うものである。

2. 調査方法の紹介

2.1. 調査対象

本稿の調査対象は、国経「中I文」履修者（2015年度入学者）である。調査対象は全員、選択必修の初習外国語として中国語を週2コマ履修しており、筆者はそのうちの週1コマを担当している。

2.2. 調査実施方法

筆者は「中I文」の授業で毎回、その回の授業に登場する全ての単語を一覧表にして配布する。まず、学生（調査対象）は教師の後について単語一覧表（資料2）を音読しながら、ピンイン・簡体字の読み方、単語の意味を確認する。次に、学生は単語を連語（フレーズ）や文に組み立てる日文中訳練習を行う。作った連語や文は教師の後について音読し、再びピンイン・簡体字の読み方を確認する。授業終了前5～10分間、その回の授業で学んだ日文中訳、ピンイン読み書き規則を出題する復習テストを、持ち込み可で行う。ピンイン出題では、読み方を間違えやすいピンイン表記を選んで出題し、下線部のピンインの読み方が他と異なるものを選ばせる（資料3）。

【資料2】単語一覧表

【注】動＝動詞、名＝名詞、代＝代名詞、数＝数詞

簡体字	日本漢字	ピンイン	(品詞) 意味
1 词典	詞	cídián	(名) 辞書；辞典 【注】 単語の意味を解説する辞典
2 铅笔	鉛筆	qiānbǐ	(名) 鉛筆
3 眼镜	鏡	yǎnjìng	(名) メガネ
4 橡皮	橡	xiàngpí	(名) 消しゴム

5	我	wǒ	(代) 私；わたし
6	饿 餓	è	(形) お腹が空いている；空腹である
7	了	le	(助) 「…になった；…てきた」【注】語気助詞
8	的	de	(助) …の～【注】定語（連体修飾語）を導く
9	姐姐	jiějie	(名) 姉；お姉さん
10	自己	zìjǐ	(名) 自分

【資料3】下線部のピンインの発音が他と最も異なるものを、ア～エの中から1つだけ選び、その記号に○を付けなさい。

1. ア. d i a n イ. q i a n ウ. y a n エ. x i a n g

2. ア. e イ. l e ウ. d e エ. j i e

3. ア. b i イ. p i ウ. z i エ. j i

単語一覧表や作連語・作文の音読、復習テストを通じて、履修者がピンインの読み書き規則を身に付けたか否かを検証するため、2015年6月と7月の2回、復習テストと全く同じ問題を出題した定期試験（資料4,5参照）を、持ち込み一切不可で実施した。

【資料4】下線部のピンインの発音が他と最も異なるものを、ア～エの中から1つだけ選び、その記号に○を付けなさい。（「中I文」定期試験、2015年6月実施）

1. ア. y a n イ. y a n g ウ. d a n エ. j i a o

2. ア. h e イ. k e ウ. l e エ. f e i

3. ア. n i イ. j i ウ. z i エ. x i

4. ア. y u イ. j u ウ. q u エ. w u

5. ア. y o u イ. w o ウ. l i u エ. j i u

【資料5】下線部のピンインの発音が他と最も異なるものを、ア～エの中から1つだけ選び、その記号に○を付けなさい。（「中1文」、2015年7月実施）

1. ア. chang イ. liang ウ. jian エ. shuang
2. ア. ge イ. zhe ウ. fei エ. he
3. ア. qi イ. si ウ. ni エ. li
4. ア. yao イ. shao ウ. jiao エ. xiao
5. ア. liu イ. jiu ウ. zuo エ. you

表1～10に、それぞれの設問の選択肢を選んだ人数を示した。ピンインの読み書き規則が身に付いた履修者と身に付いていない履修者の違いをつまびらかにするため、解答は定期試験の総得点（100点満点）の成績を、得点差の大きいところで上位、中位、下位の3つに区切って集計した。

3. 調査結果とその分析

本章では、国経中国語履修者に対して行った、ピンインの読み方を問う試験の結果を分析する。

表1～10は資料4, 5「下線部のピンインの発音が他と最も異なるものを選びなさい」という設問において、それぞれの選択肢を選んだ学生数を、定期試験の成績別（上位、中位、下位）に示したものである。お断りしておくが、本稿中のピンインに対するカタカナ表記は、ピンインの読み方を知らない読者にイメージだけでもつかんでもらえるよう、最も近い日本語音で代用表記しただけであり、このままカタカナを読んでも正確な中国語の発音にはならない。表の見方を説明する。網掛けになっている選択肢が下線部のピンインの発音が他と最も異なるもの、すなわち“正解”である。表1の“yan”“yang”“dan”“jiao”のうち、「yan”の“a”の読み方が他と異なる」と正解を答えたのは、履修者全体83人中65人(78.3%)おり、その65人の内訳は定期試験の成績上位者に14人、中位者に27人、下位者に24人おり、成績上位者は15人中14人正解しているので、上位者の正解率は93.3%、ということである。

表1, 2はピンイン“a”の読み方に関する設問の解答内訳である。ピンイン“a”は原則として口を大きく開けて「ア」と読むのだが、「ア」と読まない例外的な表記が2つだけある。1つは鼻母音“ian”、もう1つはこの鼻母音“ian”の前に子音が付かず、これだけで音節を構成

表1. ピンイン“a”の読み方解答内訳（2015年6月実施、資料4-1番参照）

		全体 (83人)	上位 (15人)	中位 (33人)	下位 (35人)
y <u>a</u> n	イエ <u>ン</u>	65人 (78.3%)	14人 (93.3%)	27人 (81.8%)	24人 (68.6%)
y <u>a</u> ng	イ <u>ア</u> ン	13人 (15.7%)	1人 (6.67%)	5人 (15.2%)	7人 (20%)
d <u>a</u> n	タ <u>ン</u>	2人 (2.41%)	0人 (0%)	1人 (3.03%)	1人 (2.86%)
j <u>i</u> a <u>o</u>	チ <u>ア</u> オ	3人 (3.61%)	0人 (0%)	0人 (0%)	3人 (8.57%)

表2. ピンイン“a”の読み方解答内訳（2015年7月実施、資料5-1番参照）

		全体 (80人)	上位 (21人)	中位 (33人)	下位 (26人)
c <u>h</u> a <u>ng</u>	チ <u>ェ</u> ン	3人 (3.75%)	1人 (4.76%)	0人 (0%)	2人 (7.69%)
l <u>i</u> a <u>ng</u>	リ <u>ア</u> ン	2人 (2.5%)	0人 (0%)	1人 (3.03%)	1人 (3.85%)
j <u>i</u> a <u>n</u>	チ <u>エ</u> ン	75人 (93.8%)	20人 (95.2%)	32人 (97%)	23人 (88.5%)
s <u>h</u> a <u>ng</u>	シュ <u>ア</u> ン	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)

する時の表記法“yan”であり、この2つの“a”は「ア」ではなく「エ」と読む（周祖谟1994.p42）。ゆえに、“jian”は子音“j”「チ」＋“ian”「イエン」だから「チエン」、 “yan”は「イエン」のように読む。履修者全体の正解率は、学習歴3カ月目が78.3%、4カ月目が3カ月目を15.5%上回って93.8%である。成績別の正解率は、3カ月目は上位者が93.3%と比較的高水準に達しているのに対し、中位者が81.8%、下位者が68.6%で、上位者と中位者では11.5%、上位者と下位者では24.7%の差がある。さらに表1を見るに、誤答の“yang”を選んだ履修者が、上位者では6.67%に留まっているのに対し、中位者ではその約2倍の15.2%、下位者では20%にものぼる。それが4カ月目になると、下位者の正解率は3カ月目に比べて19.9%上昇して88.5%となり、上位者との差は6.7%に縮まり、中位者の正解率は上位者を1.8%上回っている。この調査結果から、ピンイン“a”の読み方規則は、成績上位者が学習歴3カ月目で、中位・下位者はそれよりもやや時間を要するが4カ月目で、ほぼ正確に習得していると言える。

表3, 4はピンイン“e”の読み方に関する設問の解答内訳である。ピンイン“e”は単母音か、二重母音か、により読み方が異なる。単母音“e”は単母音“o”「オ」を発音する時の舌の位置のまま、唇を軽く横に引いて「ウ」のように読むのだが（周祖谟1994.p16）、二重母音“e i” “i e” “ü e”の中の“e”は「エ」のように読む（周有光1995.p32, 周祖谟1994.p24, 29）。ゆえに、“he”は子音“h”「フ」＋単母音“e”「ウ」だから「フエ」、 “f e i”は辰歯音子音“f”「フ」＋二重母音“e i”「エイ」だから「フエイ」のように読む。履修者全体の正解率は、学習歴3カ月目が90.4%、4カ月目が87.5%で、3カ月目を2.9%下回りはしたが、ピンイン“a”に比べると、学習歴の短い時から非常に高い正解率に達している。成績別の正解率は、3カ月目は上位者が100%、中位者が93.9%、下位者が82.9%、4カ月目は上位者が90.5%、中位者が87.9%、下位者が84.6%で、学習歴の長短や成績の良し悪しに関わらず、常に高水準にある。さらに表3で“le”を選んだ下

表 3. ピンイン “e” の読み方解答内訳（2015年 6 月実施、資料4-2番参照）

		全体 (83人)	上位 (15人)	中位 (33人)	下位 (35人)
h e	フー	2 人 (2.41%)	0 人 (0%)	1 人 (3.03%)	1 人 (2.86%)
k e	クー	1 人 (1.2%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	1 人 (2.86%)
l e	ルー	5 人 (6.02%)	0 人 (0%)	1 人 (3.03%)	4 人 (11.4%)
f e i	フェイ	75人 (90.4%)	15人 (100%)	31人 (93.9%)	29人 (82.9%)

表 4. ピンイン “e” の読み方解答内訳（2015年 7 月実施、資料5-2番参照）

		全体 (80人)	上位 (21人)	中位 (33人)	下位 (26人)
g e	グー	2 人 (2.5%)	1 人 (4.76%)	0 人 (0%)	1 人 (3.85%)
z h e	チュー	3 人 (3.75%)	1 人 (4.76%)	1 人 (3.03%)	1 人 (3.85%)
f e i	フェイ	70人 (87.5%)	19人 (90.5%)	29人 (87.9%)	22人 (84.6%)
h e	フー	5 人 (6.25%)	0 人 (0%)	3 人 (9.09%)	2 人 (7.69%)

位者 (11.4%) を除き、1 割を超える誤答が無い。この調査結果から、履修者は単母音 “e” と二重母音の中の “e” の読み方の違いを、学習開始から比較的早い時期に全く異なるものとして認識できていること、ピンイン “e” の読み方規則の習得は “a” よりも容易であることが分かる。

表 5, 6 はピンイン “i” の読み方に関する設問の解答内訳である。ピンイン “i” は原則として口を思い切り横に引いて「イ」と読むのだが、「イ」と読まない例外的な表記が 3 つだけある。それは、子音 “z” “c” “s” の後ろにある “i” であり、この 3 つの “i” は口を思い切り横に引いて「ウ」と読む（周有光1995.p30、周祖谟1994.p47）。ゆえに、“z i” は子音 “z” 「ツ」 + “i” 「ウ」だから「ツー」、 “c i” は息が長く流れる有気音子音 “c” 「ツ」 + “i” 「ウ」だから「ツーツ」、 “s i” は子音 “s” 「ス」 + “i” 「ウ」だから「スー」のように読む。履修者全体の正解率は、学習歴 3 カ月目が 84.3%、4 カ月目がそれを 7% 上回る 91.3% で、学習歴の短い時から正解率は比較的高く、さらに表 5 で “x i” を選んだ下位者 (11.4%) を除き、ピンイン “e” 同様、1 割を超える誤答が無い。成績別の正解率を見ると、3 カ月目は上位者が 93.3%、中位者が 87.9% で、ピンイン “a” とほぼ同じくらいの高水準に達しているのに対し、下位者は 77.1% で、中位者と下位者では 10.8%、上位者と下位者では 16.2% の差がある。それが 4 カ月目になると、下位者の正解率は 3 カ月目に比べて 11.4% 上昇して 88.5% となり、中位者と下位者の差は 2.4%、上位者と下位者の差は 6.7% に縮まっている。この調査結果から、ピンイン “i” の読み方規則も “a” 同様、成績上位者が学習歴 3 カ月目で、中位・下位者はそれよりもやや時間を要するが 4 カ月目で、ほぼ正確に習得していると言える。

表 7 はピンイン “u” の読み方に関する設問の解答内訳である。“u” と表記されるピンインの読み方は 2 つある。1 つは唇を丸めて突き出し「ウ」と読むもので、単母音 “u”（および “u” の前に子音が付かず、これだけで音節を構成する時の表記法 “wu”）、二重母音 “ua” の “u” などである。もう 1 つは本来 “ü” と表記すべき母音で、母音 “i” を発音する時の舌の位置のまま、唇を

表5. ピンイン“i”の読み方解答内訳（2015年6月実施、資料4-3番参照）

		全体 (83人)	上位 (15人)	中位 (33人)	下位 (35人)
n <u>i</u>	ニー	4人 (4.82%)	0人 (0%)	2人 (6.06%)	2人 (5.71%)
j <u>i</u>	チー	2人 (2.41%)	0人 (0%)	0人 (0%)	2人 (5.71%)
z <u>i</u>	ツー	70人 (84.3%)	14人 (93.3%)	29人 (87.9%)	27人 (77.1%)
x <u>i</u>	シー	7人 (8.43%)	1人 (6.67%)	2人 (6.06%)	4人 (11.4%)

表6. ピンイン“i”の読み方解答内訳（2015年7月実施、資料5-3番参照）

	正解	全体 (80人)	上位 (21人)	中位 (33人)	下位 (26人)
q <u>i</u>	チーツ	1人 (1.25%)	0人 (0%)	1人 (3.03%)	0人 (0%)
s <u>i</u>	スー	73人 (91.3%)	20人 (95.2%)	30人 (90.9%)	23人 (88.5%)
n <u>i</u>	ニー	2人 (2.5%)	0人 (0%)	1人 (3.03%)	1人 (3.85%)
l <u>i</u>	リー	4人 (5%)	1人 (4.76%)	1人 (3.03%)	2人 (7.69%)

表7. ピンイン“u”の読み方解答内訳（2015年6月実施、資料4-4番参照）

		全体 (83人)	上位 (15人)	中位 (33人)	下位 (35人)
y <u>u</u>	ユー	8人 (9.64%)	0人 (0%)	4人 (12.1%)	4人 (11.4%)
j <u>u</u>	チュー	12人 (14.5%)	2人 (13.3%)	3人 (9.09%)	7人 (20%)
q <u>u</u>	チューツ	14人 (16.9%)	1人 (6.67%)	4人 (12.1%)	9人 (25.7%)
w <u>u</u>	ウー	49人 (59%)	12人 (80%)	22人 (66.7%)	15人 (42.9%)

横笛・フルートを吹くようにすぼめた形にして、「ユ」のように読む。“ü”は前に子音が付かず、これだけで音節を構成する時には“y u”と書く（周有光1995,p31、周祖谟1994,p51）。さらに、子音“j”“q”“x”と単母音“u”は決して結びつかないので、これら3つの子音の後ろに“ü”が付く時には、上の2つの点を省略して書かないという規則があるため、子音“j”「チ」+“ü”は“j u”、息が長く流れる有気音子音“q”「チ」+“ü”は“q u”、子音“x”「シ」+“ü”は“x u”と書き、それぞれ「チュー」「チューツ」「シュー」のように読む（周有光1995,p32、周祖谟1994,p26）。

このように、“u”と表記されるピンインの読み方規則は“a”“e”“i”に比べて複雑であり、また日本人にとって“ü”が発音困難な音であることから、履修者全体の正解率は59%に留まり、ピンイン“a”“e”“i”の学習歴3カ月目の正解率に比べると、それぞれ19.3%、31.4%、25.3%、低い。成績別の正解率を見ると、上位者は80%と比較的高水準に達しているのに対し、中位者では66.7%、下位者に至っては42.9%に留まり、中位者と下位者では23.8%、上位者と下位者では37.1%もの差がある。さらに表7を見るに、誤答の“y u”を選んだ履修者が、上位者ではゼロ、中位者では12.1%、下位者では11.4%、“j u”を選んだ履修者が、上位者では13.3%、中位者では9.09%、下位者では20%、“q u”を選んだ履修者が、上位者では6.67%、中位者ではその約2倍の12.1%、下位者に至っては25.7%と2割を超え、ピンイン“a”“e”“i”に比べて、成績上位・中位・下位者いずれのグループでも誤答率が比較的高い、という問題点が見える。この調査結果から、ピンイ

ン“u”の読み方規則を学習歴3カ月目で正確に習得するのは困難であること、成績上位者は完全ではないが3カ月目である程度習得しているのに対し、中位・下位者は本来“ü”と表記すべきものとの区別さえついていないことが分かる。

表8, 9はピンイン“i o u”の読み方に関する設問の解答内訳である。三重母音“i o u”は前に子音が付かず、これだけで音節を構成する時には“y o u”と書き、前に子音が付く時には間にある“o”を書かず、子音+“i u”と書くという規則があるが(周有光1995.p33, 周祖谟1994.p32, 51)、間にある“o”の発音が消えるわけではないので、“l i u”“j i u”はそれぞれ「リウ」「チウ」ではなく、「リョウ」「チョウ」のように読む。二重母音“u o”は前に子音が付かず、これだけで音節を構成する時には“w o”と書き、「ウオ」のように読む(周有光1995.p31, 周祖谟1994.p51)。履修者全体の正解率は、学習歴3カ月目が85.5%、4カ月目にはそれを4.5%上回る90%で、ピンイン“e”や“i”と同じく、学習歴の短い時から比較的高水準に達している。しかし成績別の正解率を見ると、3カ月目は上位者が93.3%、中位者が87.9%、下位者が80%、4カ月目になると、上位者が100%、中位者が93.9%、下位者が76.9%で、中位者と下位者の差は7.9%から17%、上位者と下位者の差は13.3%から23.1%へと広がっている。さらに表9を見るに、誤答の“l i u”“j i u”を選んだ履修者が、上位・中位者ではゼロなのに対し、下位者ではそれぞれ7.69%と3.85%、“y o u”を選んだ履修者が、上位者ではゼロなのに対し、中位者では6.06%、下位者ではその約2倍の11.5%にのぼり、下位者の誤答率は上位・中位者に比べて高くなっている。

学習歴が長くなったのに、成績下位者の正解率が3.1%下がり、上位・中位者との正解率の差が開き、誤答率も高い値であるのは何故だろうか？ピンイン表記が“w o”である単語の代表は、“我”（わたし）を意味する）であり、この単語は「中I文」半期15回の授業のうち、登場しないことは一度も無い。一方、「中I文」の授業で教えたピンイン表記が“l i u”である単語は“六”、“j i u”

表8. ピンイン“i o u”の読み方解答内訳（2015年6月実施、資料4-5番参照）

		全体 (83人)	上位 (15人)	中位 (33人)	下位 (35人)
y o u	イオウ	4人 (4.82%)	1人 (6.67%)	0人 (0%)	3人 (8.57%)
w o	ウオ	71人 (85.5%)	14人 (93.3%)	29人 (87.9%)	28人 (80%)
l i u	リョウ	5人 (6.02%)	0人 (0%)	2人 (6.06%)	3人 (8.57%)
j i u	チョウ	3人 (3.61%)	0人 (0%)	2人 (6.06%)	1人 (2.86%)

表9. ピンイン“i o u”の読み方解答内訳（2015年7月実施、資料5-5番参照）

	正解	全体 (80人)	上位 (21人)	中位 (33人)	下位 (26人)
l i u	リョウ	2人 (2.5%)	0人 (0%)	0人 (0%)	2人 (7.69%)
j i u	チョウ	1人 (1.25%)	0人 (0%)	0人 (0%)	1人 (3.85%)
z u o	ツオ	72人 (90%)	21人 (100%)	31人 (93.9%)	20人 (76.9%)
y o u	イオウ	5人 (6.25%)	0人 (0%)	2人 (6.06%)	3人 (11.5%)

である単語は“九”、“z u o”である単語は“坐”（乗り物に座って乗る）“做”（ご飯・服などを作る）、“y o u”である単語は“有”（持っている）で、いずれも常用単語ではあるが、“我”のように毎回登場するほど使用頻度は高くない。朱純1994.p190には、「何度も復唱され、充分復習された学習事項は忘却の速度を緩め、長期記憶に定着する」とあることから、履修者にとっては使用頻出の高い“我”のピンイン表記“w o”の読み方規則の方が“z u o”よりも定着し、試験でも判別しやすかったのだろう。この調査結果から、授業での登場回数が多い単語のピンイン表記は、大半の履修者がその読み書き規則を習得することができるのに対し、登場回数のあまり多くない単語のピンイン表記は、履修者によってその読み書き規則の習得に差があることが分かる。

表10はピンイン“i a o”の読み方に関する設問の解答内訳である。三重母音“i a o”は前に子音が付かず、これだけで音節を構成する時には“y a o”と書き、「イアオ」のように読むので（周有光1995.p31、周祖謨1994.p51）、“y a o”と“i a o”が同じ読み方、“a o”は「アオ」と異なる読み方をする。履修者全体の正解率は76.3%で、低い値ではないが、成績別の正解率を見ると、上位者が90.5%の高さに達しているのに対し、中位者は上位者を11.7%下回る78.8%、下位者に至っては上位者を29%も下回る61.5%に留まっている。さらに表10を見るに、誤答の“y a o”“j i a o”を選んだ履修者が、上位者ではそれぞれ4.76%、中位者ではそれぞれ6.06%、下位者はそれぞれ19.2%と11.5%で、下位者の誤答率は中位者の1.8～3.1倍、上位者の2.4～4倍もの高い値が出ている。この調査結果から、ピンイン“i a o”の読み書き規則は、成績上位者が学習歴4カ月目でほぼ正確に習得することができるのに対し、中位・下位者はまだ正確に習得していないことが分かる。

4. 分析結果の総括

以上、国経「中I文」履修者に対して行った、ピンインの読み方を問う問題の解答を分析したが、国経の中国語履修者のピンイン習得には以下のような特徴が見られる。

- (1) 履修者が読み書き規則を習得しやすいピンイン表記を、容易なものから困難なもの順に並べ

表10. ピンイン“i a o”の読み方解答内訳（2015年7月実施、資料5-4番参照）

	正解	全体 (80人)	上位 (21人)	中位 (33人)	下位 (26人)
<u>y a o</u>	イアオ	8人 (10%)	1人 (4.76%)	2人 (6.06%)	5人 (19.2%)
<u>s h a o</u>	シャオ	61人 (76.3%)	19人 (90.5%)	26人 (78.8%)	16人 (61.5%)
<u>j i a o</u>	チャオ	6人 (7.5%)	1人 (4.76%)	2人 (6.06%)	3人 (11.5%)
<u>x i a o</u>	シアオ	5人 (6.25%)	0人 (0%)	3人 (9.09%)	2人 (7.69%)

ると、“e” > “i o u” > “i” > “a” > “i a o” > “u”となる。

- (2) 成績の良し悪しにかかわらず、大半の履修者にとって読み方規則の習得が容易なピンイン表記は“e”であり、困難なピンインは“u”である。
- (3) 成績下位者にとって読み書き規則の習得が困難なピンインは“i o u”“i a o”である。
- (4) 読み書き規則が複雑な“u”“i o u”“i a o”を、学習歴の短い時に習得することのできる履修者は、中国語学習全般において良い成績を収める。
- (5) 授業での登場回数が少ない単語のピンイン表記の読み方規則を、正確に習得することができる履修者は中国語学習全般において良い成績を収め、できなければ中国語学習全般においてもあまり成果を上げない。

5. 今後の研究課題

以上の分析結果に基づき、今後の中国語教育の研究課題として、以下の2項目を提案する。

- (1) ピンイン読み書き規則を正確に理解させる教育法の開発。本稿の調査を通じ、ピンインによって習得が困難なものと、そうではないものが判明した。習得困難な規則を正確に理解させれば、円滑な中国語学習の妨げをひとつ、取り除くことができる。
- (2) 読み書き規則の習得が困難なピンインを含む単語、フレーズ、文を多く登場させる教育法の開発。本稿の調査を通じ、授業での登場回数が多い単語のピンイン表記の読み書き規則は、成績下位者でも正確に理解していることが判明した。登場回数を高めるため、授業で提示する単語、フレーズ、文を見直していく。

【参考文献】

- 朱純1994.《外语教学心理学》，上海外语教育出版社
周有光1995.《汉语拼音方案基本知识》，语文出版社
周祖谟1994.《汉语拼音字母学习法》（修订本），语文出版社